

① 高校2年生（私たち高2の声、親の声—高知の現状）

生徒： 僕たち高2生は知事との座談会に向けて、高知をより住みやすい県にするためのクラス討論を行いました。

まず、今の高知にどのくらい満足しているか、10点満点で評価してもらいました。各クラスの得点は、4～6ポイントで、高2全体の平均は4.9ポイントでした。

【クラス討論での意見】

●高知県の魅力

最後の清流と言われる四万十川をはじめとした川や海・山などの自然が豊か、カツオ・ブントウ・ショウガなどの水産・農産物やリープル・ごっくん馬路村・ぼうしパンなどの高知発祥のおいしい食品がある。また、高知を代表するよさこい祭りやルイ・ヴィトンの専門店がある、アンパンマンが全国的に有名、星空がきれいに見える、東洋町などサーフィンのスポットが多数ある、四国八十八カ所巡礼地がある、空気が新鮮できれい、「広末涼子」「間寛平」「やなせたかし」などの有名人がいる。このような意見が高知の魅力として挙げられました。

●高知県に足りないもの

良いところのPRが足りていない、若い人材の流出による人手不足、県を愛する心や活力・活気が足りていない、交通の便が悪い、交通機関の運賃が高い、バス・鉄道・路面電車などの線路の延長が必要、他県に比べてテレビのチャンネルの数が少ない。また、一流のスポーツチームがない、日本三大がっかり名所の一つとして有名なはりまや橋に代わるがっかりしない名所が欲しい、若者向けの娯楽施設・服屋・デパートなどがなく、駅周辺の開発が遅れている、学力の高い大学がない。以上が改善してほしい点です。

●坂本龍馬をアピールするべきか、または別のキャラクターを作るべきか

アピールすべきと、すべきでないという意見が大体半分に分かれました。別のキャラクターをアピールすべきだという意見には、候補としてアンパンマン・「くろしおくん」などの従来のキャラクター、長宗我部元親・広末涼子などの有名人物、鳴子やカツオ・野菜などの名物といったものが挙がりました。

●高知県の子ども体力、学力をどう伸ばすか

【体力面】

スポーツテストを全員にやらせて目標のハードルを上げる、よさこい祭りへの全員参加、登山など高知の自然を生かした授業を行う、低学年のうちに基礎体力



を育む、広い公園を作り屋外で遊ぶ機会をもっと増やす、自転車専用道路を作りサイクリングできるようにする、体育の授業で筋トレを必修にし直接的な体力向上を目指す、県のスポーツ大会の目標を上げる、小さい頃から農業・漁業の体験をさせる、という意見がありました。

【学力面】

学習塾を増やし塾に行くのを義務づける、塾に行かせるのではなく学校の授業時間を増やす、他県の学校を視察して良いところを授業に取り入れる、県内のレベルに合わせた独自の統一テストを行う、全ての学校が土曜日にも授業を行う、先生の数を増やす、学校の質を上げるため有能な先生を雇う、科学フェスタなどを増やし学ぶことに興味を持ってもらう、という意見がありました。

●将来どんな仕事があれば（条件が整えば）高知に帰ってきたいか

電子工学系の企業がある、高知の自然を生かした第一次産業がある、第三次産業の拡充、高収入の仕事や労働条件の良い仕事がある、（医者を目指している生徒から）カリスマ医師がいる大きい病院がある、県内の物を県外に売り出すような高知のことを知っている人でないとできない仕事や有名企業がある、若者向けファッションタウン、帯屋町のショッピングモール化などが挙がっていました。

多くの意見に共通していたのは、田舎の良さを生かせる仕事ということです。

【家庭アンケートでの意見】

より幅広い情報を集めるため、高2学年の家庭アンケートを実施しました。

高知県に対する満足度の平均点は6点でした。5～8点が多く、やや満足している人が大半を占めていました。

●高知県の魅力

ショッピングセンターに生産者コーナーが多くあり生産者を身近に感じられる、県民性が大らかで温かい、気候が暖かく穏やか、空気がきれい。生徒と共通する意見には自然が豊かである、誇れる偉人がある、よさこい祭りがある、カツオ・文旦・ユズなど新鮮な食材が多い、がありました。

●坂本龍馬をアピールするべきか、または別のキャラクターを作るべきか

賛成 98 人、反対 75 人ですが、大河ドラマ「龍馬伝」のある来年まではアピールするという意見が多くありました。反対意見では坂本龍馬は十分有名だ、などがありました。坂本龍馬以外のキャラクターを考えるとすれば、現在県外で働いている人・吉田茂・ジョン万次郎・土佐犬・高知城キャラクター・有川浩・くろしおくん・長宗我部元親などがありました。

●他県との比較

【プラス面】

人が開放的かつフレンドリーで暮らしやすい、田舎だけど田舎の良さがある、

昔ながらの行事がある、近所づきあいがある、などがありました。

【マイナス面】

接客業が妙にフレンドリー過ぎる、全てにおいて一番遅れた県である、他県から孤立している、中心街の活気がない、離婚率・全国学力テストなどワーストが多い、地域格差がある、若者が定着しにくい、などがありました。生徒と共通する意見には、交通機関などが不便でアクセスに時間がかかる、おしゃれなスポットや出かけるスポットがない、駅をもっと充実させるべきだ、がありました。

●高知県の子どもの体力、学力をどう伸ばすか

【学力面】

補習をする、本を一定時間読む、ゆとり教育の撤廃をする、基本的生活習慣を身につける、親の経済力を高める、がありました。生徒と共通する意見には、小学校の担任を増やす、先生や保護者が熱心に取り組む、土曜日の授業を実施する、科学館やプラネタリウムを作る、などがありました。

【体力面】

歩く習慣を身につける、利用できる施設の格安化をする、親子が安心して遊べる場所を増やす、生徒と共通する意見には、外で遊べる環境を作る、体育の専門教師を置く、がありました。

●将来、子どもに高知県に帰ってきて欲しいか、またその条件について

賛成 75 人、子どもに任せる 40 人、反対 38 人で、子どもに任せるという意見の多くは帰ってきて欲しいが、最終的判断は子どもに任せるというもので、全体的に見ると賛成意見が多かったです。帰ってくる条件は、大学で学んだ知識が生かせるような働く場所がある、やりがいのある仕事がある、農業者を増やす、農業政策のレベルを上げる、農業・漁業を中心に独自のブランドを作る。生徒と共通する意見には、若者が働く所がある、第三次産業が活発になる、安定した収入がある、がありました。

【まとめ】

この討論やアンケートで、高知県は寂れているや活気がないなど、多くの厳しい意見がありました。しかし、これらの意見は高知県が好きだからこそ出てくるのだと思います。知事には、問題を改善し、高知県をみんなが住みやすい県にしてもらいたいと思います。

知事： どうもありがとうございました。接客業が妙にフレンドリーすぎる、というのはおもしろかったですね（笑）。良い所、悪い所のアンケートは勉強になります。「輝け！未来の高知」と書いていますが、他力本願で輝けるわけじゃない。自分たちで努力して輝けるようになるのだと思います。その

- 接客業が妙にフレンドリー過ぎる
- すべてにおいて一番遅れた県
- 他県からの孤立
- 中心街の活気
- ワーストが多い
(離婚率・全国学力テスト)
- 地域格差がある
- 若者が定着しにくい

ためには、自分たちがどこにいるか、冷静に判断して、悪い事は悪い事として認め、それを克服するためにはどうするか、率直なところから考えていかないといけない。そこから全てはスタートするのだと思っています。

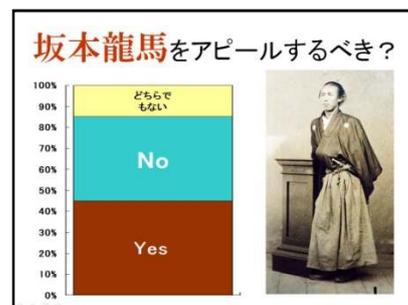
どうして坂本龍馬をアピールすべきかという問いを立てたのかについて興味があるんですが、龍馬だけではないと思うからですか。

生徒： 坂本龍馬ばかりアピールするけど、坂本龍馬は有名な
ので、長宗我部元親など、もっと他の人をアピールした
ほうが良いと思って出しました。

知事： もっと伸びていくためには他の人もアピールした方が
いいですね。だけどアピールするのも難しくて、あれ

もこれもアピールしているとインパクトが少ないというのもあり、ある程度集中することも重要だと思います。来年は大河ドラマ「龍馬伝」ということで、坂本龍馬を一生懸命、アピールしています。龍馬伝は、岩崎弥太郎から見た坂本龍馬ということになっていますが、三菱財閥を作った岩崎弥太郎は全国で必ずしも知られていません。来年の「龍馬伝」に合わせて坂本龍馬だけじゃなく、岩崎弥太郎などもPRする取り組みをしていきたいと思っています。

将来どんな仕事があれば高知に帰って来たいかという問いは、非常に参考になります。高知県で働くことと、東京で働くことは、ある意味、坂本龍馬の生き方と西郷隆盛・木戸孝允の生き方の違いに似ているところがあると思います。例えば、東京に出て行って、大会社で働くことになると、非常に大きな組織で働くことになり、その大きな組織で偉くなることができれば、大きな仕事ができます。高知にはものすごく大きな会社があるわけじゃありませんが、逆に言うと、会社の中で比較的早く責任ある立場で仕事ができるようになることもあります。大きな組織の一員となって将来その上を目指していこうとするか。比較的小さいかもしれないけど、その中で重要なポジションを占めて活躍し、小さいやつを大きくしてやろうと頑張るか。例えば、西郷隆盛や木戸孝允は薩摩藩・長州藩という組織で動いた。坂本龍馬は、浪人として個人で動いて、自分で自分の組織、海援隊でベンチャーみたいなものを打ち立てて動いていこうとした。坂本龍馬についてもっとアピールすべきと思う人と思わない人が半々ぐらいに割れるというのも、どういう生き方に共感するかに起因すると思います。高知県はチャンスを生かして伸び上がっていくことを目指している県でもある。そういう中で、私はできるだけ若い人々に高知県の中でチャレンジをしてもらいたいと思います。他方で、皆さんそれぞれの選択も非常に大切なので、いろんなことで悩まれて、早々軽々に結論を出さずに考えていただければと思います。



最後に体力の問題ですごく心配していることがあります。高知県は体力テストが全国で最下位でした。だけど、全部の種目が最下位だったわけじゃない。例えば、隣の人と競い合うボール投げとかは比較的成績が良かったんです。一番駄目だったのが長距離走などです。最後の最後まで一生懸命走りきったのか。実は、そういう持久力を試す種目がものすごく悪く、総合力で最下位になりました。

体力が他の県に及ばないことも大変ですが、私が心配しているのは、一生懸命最後までやりきる気持ちが十分身につけていない小・中学生が多いんじゃないかということです。学力の問題も、基礎の問題ができない中学生がいます。体力の問題と合わせて考えると「おおの、こんな勉強するがしんどいよ。やりたくない。」と思ったときに、それでも一生懸命困難に立ち向かってやり抜くことが身につけてないのだとすれば、これは学力や体力の成績が低いことよりもはるかに重大な問題だと思っています。一生懸命ものごとに取り組む姿勢を身につけていくように努力していかないといけないと思います。